

## 退任のご挨拶

前編集・情報委員会常任理事  
埼玉医科大学総合医療センター  
松田 恵雄



この度、編集・情報担当常任理事を退任いたしました、埼玉医科大学総合医療センターの松田 恵雄でございます。

在任中は、各方面から並々ならぬご厚情を賜りましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

特に、日常業務に追われながらも、貴重な玉稿をご提供頂きました、執筆者の先生方、昨今の厳しい経済情勢にも関わらず、広告の協賛をご快諾頂きました賛助会員各社の方々、特集にご協力頂きました、研究・学術団体の皆様、そして貴重なご意見と励ましを頂戴しました、会員諸兄には、申し尽くせぬ感謝の気持ちで一杯です。

思えば、小川清会長から埼放技で汗を流すようご指示を頂戴したのは、2008年の晩秋と記憶しております。埼放技における編集経験が全く無く、右も左も判らない私でしたが、前任の小池正行防衛医科大学校病院放射線部技師長による丁寧なご指導と、優秀なる編集・情報委員に恵まれたことで、何とか担当初号の発刊および、Webサイトでの情報発信にこぎ着けることができた喜びを昨日のように覚えております。

その後は、あっという間に二年間を走りきり、私の右腕として活躍してくれた潮田陽一副委員長（現：編集・情報委員長：常任理事）にバトンを託すことで、私の人生でも充実していた期間が幕を閉じました。

任期中、小生が感じたことは、「会員の無関心が最も怖い。」という事です。学術特集や交流事業報告を企画しても、なかなか皆さんに読んでもらえません。大学では、封を切っていない埼玉放射線さえ数多く見かけます。一方、埼玉県放射線技師会自体も、大きなうねりの中で数多くの課題を抱えています。しかし、解決に必要な、「会員が一体どの様な要望を持っているのか」が、なかなか把握しきれないという場にしばしば直面します。

どちらも、小生の力不足によるものではありませんが、「会員の無関心」というキーワードが密接に関係しています。今後は、小生なりに会の外から「関心を持って」その推移を見守るつもりではありますが、会員の皆様におかれましても、是非、会の運営に「関心を持って」、多くの要望をおつけてみては如何でしょうか。

埼玉県放射線技師会は、多くの会員が沢山の英知を結集することで、まだまだ発展する力を内包しています。我々の関心で是非とも、会の盛栄を実現しましょう。

埼玉県放射線技師会における、益々のご発展を心より祈念申し上げまして、退任挨拶の結びとさせていただきます。ご支援・ご指導頂きました皆様、本当にありがとうございました。

以上